

じょうきょうじ 浄敬寺だより



発行日 令和元年八月十三日 第三十三号

【法語】

ちちゅうれんげ だいにしやりん

池中蓮華、大如車輪。

しょうしきしょうこう おうしきおうこう

青色青光、黄色黄光、

しやくしきしやつこう びやくしきびやつこう みみようこうけつ

赤色赤光、白色白光。微妙香潔。

しやりほつ ごくらくこくど じょうじゆによぜ くだくしょうごん

舍利弗、極楽国土、成就如是 功德莊嚴。

『仏説阿弥陀経』より

【現代語意識・解説】

〔極楽浄土〕の池の中の蓮華は、大きさは車輪のようです。青い色の花は青く光り、黄色の花は黄色に光り、赤い色の花は赤く光り、白い色の花は白く光る。その花は何とも言えないきよらかな香りがあります。舍利弗よ、極楽浄土にはこのような功德があり、その世界を莊嚴しているのです。」

仏事の際に拝読することの多いお経『阿弥陀経』の中に、極楽浄土に宝の池があって、その功德（はたらき）を説いている一説があります。元同朋大学の教授・廣瀬惺先生は著書の中で、「水で表されておりますものは、感情でしょうね。（中略）純粹な生活感情でしょう。」と記されています。私たちの感情は生きていく限り激しく波打ち、喜びや幸せを感じることもあれば、時に底知れない悲しみを抱えることもあります。そんな私たちを、とらわれた価値観から開放し、個性いっぱいありのまま救ってくださる極楽浄土の功德を示している一説です。



報恩講お引き上げ



文学座長岡公演



木場教会説教大会

2018 年後半写真展

夏休みおたのしみ会(8/4)



夏の法話会



☆悲しみを通して見えてくる「いのち」

連日厳しい暑さが続いています。日本は四季がはっきりしていると言われますが、確かにあの凍えつくような冬からわずか半年でこんなにも変わってしまうのですから驚きです。それにしても近年の暑さは異常ですね。お寺は風が入って涼しいでしょう、とよく言われますが、この頃は熱風が入ってくるようで、昔とは少し様子が違うようです。というわけで、浄敬寺でもついに本堂にエアコンを設置することとしました。盆内などはもちろん、最近では夏でもお寺で法要が勤まることも多く、熱中症対策のためにも必要と判断して入れさせていただきました。効き目は抜群です。とは言って暦の上ではすでに秋です。お盆も過ぎれば、秋風も感じられるようになります。季節の移ろいは早いですが、それは人間とて同じことです。

先月私の同級の友人が亡くなりました。中学、高校と親しくお付き合いさせてもらった友人でした。お互いの結婚式にも出席し、親しくお酒も酌み交わした仲でした。そんなわけでご遺族から依頼され、生まれて初めて弔辞を読ませていただきました。平素は僧侶として他の人の弔辞を聞く機会はありませんが、いざ自分でとなるとなかなか難しいものですね。あれも言いたいこれも言いたい、悩みに悩み、結局本当に言いたか

ったことが言えたのだろうかと忸怩たる思いがあります。今年に入ってから少なくとも私の知り合いの同級生が三人亡くなりました。近年は医学も進歩し、長寿の方が本当に増えていきます。新聞の死亡欄を見ても九十代は当たり前になっています。それでも、自分の周り方が亡くなられると、人間のいのちについて改めて思い知らされます。今日生きていることが決して当たり前ではなかった。明日が当たり前に来ると思っていたが、そうではなかった。身近な人の死は、悲しみを通して私たちにいのちの重さ、大切さについて教えてください。一日一日を大切に生きたいものです。

さて、平成二十三年には本山東本願寺で宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌が厳修され、大勢のご門徒の皆様と共に京都へお参りに行ってきました。その後平成二十七年には三条別院でも御遠忌が厳修されました。そして、私達の地元第十組では、来年四月十二日（日）にアルフォーレで御遠忌法要を厳修することになりました。言うまでもなく、御遠忌とは、五十年ごとにお勤めされる宗祖の回忌法要のことです。法要としては最も重い法要としてお勤めされます。時期になりましたら皆様にご案内させていただきますが、来年の予定の中に入れていただければ幸いです。そして、この御遠忌中に、帰敬式が執り行われます。帰敬式につきましては、別のコーナーで説明させていただきますが、

帰敬式を受式しますと法名が授与されます。法名は亡くなつてから頂くと思つておられる方が多いかと思ひますが、本来生前にいただくのが正式です。御遠忌という貴重な機会に是非帰敬式を受式され、仏弟子としての名乗りの中で、私にまで伝えられている仏様の願いを聞いていただきたいと思ひます。

合掌

(住 職)



☆庫裡便り (坊守)

◎亡き方を偲んで

長い間教職に就かれ、退職後は寺の法話会等にいつもご参加いただいた姉妹の方がご親戚の方にかけて看取られ、命終されました。教師をされていた当時の教え子の方々が各地からお墓参りに来られます。「先生に大変お世話になりました」と手を合わされる姿に、優しいまなざしを思い出し、そのご遺徳を偲んでおります。

寺の総代をお勤めいただいた平田寛さんが今年命終されました。「寺が大好きでした」と奥様が言ってくくださったので、本堂を会場に葬儀をさせていただきました。十組の総代世話方会の会長等もお勤めくださり、法話会などには欠かさず出席されておりました。心より感謝しております。

◎孫三人とジジ・ババの旅

新元号が発表された四月一日、春休み中の孫三人を連れて、東京スカイツリーと上野動物園に行ってきました。動物園は大喜びでしたが、二十分程並んで見る事ができました。パンダに感激したのは、年寄り二人。日帰りの忙しい日程でしたが、孫たちとの珍道中を楽しみました。ちなみにこの間、当院は年度始めにつき良寛記念館へ、准坊守は本山・春の法要に准堂衆として出仕でした。

◎木揚場説教大会

新潟市の万代橋の近くに木揚場教会があります。ここは本山再建時に材木が集積された場所であり、そこがお念仏の道場になった歴史ある建物です。六月二十二日、そこで説教大会が開催され、准坊守・晴香も御伝鈔拝読をさせていただきました。ご門徒の方々と聴聞に行ってきました。三百人を超える参詣者の中、大役を果たすことができました。

◎「ガラスの動物園」の観劇ありがとうございました

住職・坊守の二女・千晶の出演しました文学座長岡公演「ガラスの動物園」には大勢の方から観劇していただきありがとうございました。お陰様で一週間の東京本公演、長岡を含む地方公演も盛況のうちに無事終了することができました。本人に代わりまして御礼申し上げます。



☆二〇一九年前半を振り返って

◎春彼岸（お中日三月二十日）法話 住職

住職から法話の後、勤行・おときがありました。左記はこの日の法話の要旨です。



お彼岸というと、一般的には生きている私たちが先祖を供養するという一方通行的行為として考えがちであるが、供養するということはお念仏のみ教えに出会っていくことで、いずれ死にゆく我が身の「いのち」の行方を思い、「いのち」とどう向き合って生きていくのかという大切な問いを亡き人からお教えいただくことです。そういう思いに立った時、本当の意味で亡くなられた人を仏様として尊ぶという、本来の供養ということにつながっていくものなのです。

浄敬寺の年中行事へのご参加は申し込み不要です。お彼岸は年に二回。春分・秋分の日にはぜひお参りください。

◎報恩講お引き上げ（五月十八日）法話 今泉 温資 師

宗祖親鸞聖人のご命日のお勤めの報恩講は、寺の年中行事の中で最も重きをおく行事で、近隣（法中）の寺院の御住職方から出仕していただきお勤めします。まず、お馴染みの今泉先生のご法話、勤行、おときがありました。

今年は法要後の特別企画として、浄敬寺総代・佐藤信義さんのお孫さんでピオラ奏者の村井宏明さんから演奏していただき、美しく奏でられる懐かしい名曲を堪能しました。



◎木揚場教会説教大会（六月二十六日）

木揚場教会で説教大会を！と、名古屋の布教使・祖父江佳乃氏が企画され、多くの方々のご尽力により開催されました。現在ご活躍の布教使方のお説教をオムニバス風に聴聞できる贅沢な企画で、会場は満堂。合わせて写真家の中川幸作氏、画家の小林憲明氏の作品も展示され、充実の説教大会でした。

准坊守・晴香は、御伝鈔拝読のお役目がいただきました。聴聞と応援に足を運んでくださった皆様、ありがとうございました。



◎夏の法話会（六月二十五日）法話 田澤 一明 師

田澤一明師より「苦悩からの解放」の講題でお話いただきました。宗教の根本は苦悩から始まり、苦悩の解放を願うものである。お釈迦様は、先ず「苦」とは何であるのかを明らかにすることで、その対処法として成仏しなくてはならない、と説かれている。仏教は神秘的なものではなく、問題を明らかにし、その対処法を説く、実に合理的な教えであること。そして「苦」を感覚するのは、煩悩が作用していると、お釈迦様が丁寧に説明していることを説明くさいました。

その「苦」の問題である煩悩の対処法として、真宗と他宗の違いについて禅宗などでは「先ず煩悩を断じなくては」と考えるのに対し、真宗、親鸞聖人の教えは「煩悩を断ずる」と誓った阿弥陀如来の「本願を信じる」ことである。そのまま救われる、という教え。とても自分たちには煩悩を断ずることはできないけれど、そう誓ってくださった阿弥陀如来を信じることによって救われていく、浄土真宗とは、そういう救済の構造であることを明らかにしてくださいました。

（当院・記）

◎盆参会（七月十四・十五日）法話 住職・当院

十四日は当院から十五日は住職からの法話の後、勤行・おときがありました。

盆参会（盆内）は新潟県中越地方独特の行事で、浄敬寺では新盆法要を兼ねてお勤めしています。



葬儀とは本来、亡き人をおして「いのち」の重さとかげがえのなさを知らされる儀式であったはずが、近年葬儀そのものがセレモニー化してしまい、なかなかそれが出来なくなっている現状があります。そうであれば、盆内やこれから迎えるお盆などに、私たちが先祖に触れる機会が、単に先祖供養で終わることではなく、亡き方から私に届けられているいのちの願いに出会わせていただき、いのちの重さ尊さを感じ取っていく機縁とすることが願われているのではないのでしょうか。

今年、大切なご親族とのお別れを経験され、はじめて盆内に参詣してくださった方もおられました。ご自身の悲しみにも、「いのち」にも、ゆつくり向き合える場を開いていけたらと思っております。

◎夏のおたのしみ会（八月四日）

今年もにぎやかに楽しく開催できました。食事の準備をお手伝いしてくださった皆様、ご参加の皆様、ありがとうございました。

本堂落慶法要の稚児行列をきっかけにスタートした夏のお楽しみ会。定番となったプログラムですが、回を重ねながら育んできた歴史があります。手を合わせて一緒にお正信偈をよみ・住職のお話を聞いてもらうのは、子どもの頃に「お寺」を体験し、歴史ある宗教に触れてもらいたいという願いから。ミニコンサートを大事にしているのは、本格的なコンサートには入場制限のかかってしまいう子ども達にも、音楽に親しんでもらいたいから。ゲームや肝試しをするのは、お寺が気軽に立ち寄れる場所だと知ってほしいから。ミニコンサートには、数年ぶりで弦楽器のコンサートをお願い

しました。演奏者ギリギリまで迫り、キラキラした目で眺め、知っている曲が流れ出すと、歌ったり踊ったりする子ども達の姿を眺めるのも、主催者の楽しみです。



お楽しみ会にご参加いただいた皆様、ご協力いただいたスタッフの皆様、ありがとうございました。最年少十一カ月〜中学生、そして大人がひとつのイベントに参加することって、もしかしたら珍しいのかも知れません。お一人お一人が、その人なりの関わり方や楽しみ方で参加してくれること、嬉しく頼もしく思っています。

☆二〇一九年後半の行事予定

八月十三日～十六日 孟蘭盆会（お盆）

* 十三日・・ 午前六時より 本堂にてお朝事

九月七日（土） 『歎異抄』をよむ会 午前九時より

* 都合により第一土曜日に開催します

九月八日（月・振休） お寺でお茶席体験

①十七時～ ②十八時半～

九月二十～二十六日 秋彼岸

* お中日 二十三日（秋分の日）

午前十時半～法話勤行後おとき

九月二十九日（日） 「音市場」会場

十月十二日（土） 『歎異抄』をよむ会 午前二時より

* 特別講義 佐野 明弘 師（石川県加賀市）

『歎異抄』をよむ会をはじめて三年の節目の特別講義です

十一月五～八日 三条別院報恩講

* 期間中の十組団体参拝に、ぜひご参加ください。

十一月九日（土） 『歎異抄』をよむ会 午前九時より

十一月十三日（水）～十四日（木）有縁講（宿泊・赤倉ホテル）

十一月二十四日（日） しまい講

* 午前十時半より法話・勤行・おとき

十二月十五日（日） 年末法話会 午後一時半～四時

（別紙・行事予定表の日程から変更になります）

講師 梨本 哲哉 師（新潟市弥彦村）

* 木場場説教大会でご縁のあった先生です

二〇二〇年一月一日 修正会勤行 朝六時より

一月一～二日 年始参

* 真宗門徒の一年は、御本尊のお参りから始めましょう

☆ご案内

☆お寺でお茶席体験

秋のはじまりに、美味しい和菓子とお抹茶をいかがですか。
お茶席でのちよつとした作法が分ければ、旅先でも気軽に
お茶席を楽しめるのではないのでしょうか。お子さんお孫さん
と一緒にぜひどうぞ。

*日時 九月八日（日）

①十七時～ ②十八時半～

*参加費 300円

*お申し込みはお電話またはEメールにて、

ご希望の時間と参加者の人数をお知らせください。

浄敬寺 0257-22-2481

メール jyokyouji222481shinshu@gmail.com



☆第三十五回 晴香の「真宗門徒のママ知識」

ちよっころ
解説!

今回のテーマは【十組・御遠忌】です。

二〇二〇年四月十二日(日)、アルフォーレを会場に、三条教区十組(柏崎・刈羽の真宗寺院)で宗祖・親鸞聖人の七五〇回御遠忌を厳修することとなり、準備を進めております。この御遠忌において、帰敬式が執り行われます。稚児行列もありますので、詳細を解説します。

☆帰敬式(ききょうしき)って何でしょう?

帰敬式とは、法名をいただく儀式で、髪を剃ることをかたどった「剃刀(ていとう)の儀」を行うため、俗に「おかみそり」ともいわれます。髪をそる(帰敬式では真似をする)のは、切っても剃っても、少しずつ伸びてくる髪の毛や髭が私たちの煩惱の象徴であるからで、我が身の抱えている煩惱を知らされ、念仏申すことが仏教の教えだからです。

☆何を敬うのか?

「帰敬」の語源は、仏教の三つ宝に帰依し敬うことです。

三つの宝とは

*仏・・・仏様 仏は「真実に目覚めたもの」意味です

*法・・・仏様の教え

*僧・・・仏様の教えを聞くため、また、実践するための集まり
(僧の語源はサンガ僧侶個人を表す言葉ではなく、仏を敬う集団のこと)です。

実際には髪はそりません



お釈迦様が在家信者の家族に、仏・法・僧の三法に帰依する「三帰」をさすけ仏弟子となった...というところに、帰敬式の源流があります。

☆帰敬式(ききょうしき)を受式すると・・・

帰敬式を受式すると、法名をいただくことができます。

法名とは仏弟子の名のりです。つまり、「南無阿弥陀仏」のお念仏を示されたお釈迦様の教えを聞いて生きる者になるという自覚の名前です。生活スタイルはそのままに、仏弟子としての歩みが始まります。

☆法名って何でしょう?

実際のところ、通夜や葬儀の際に位牌に書かれた法名を目にする機会が多いかと思いますが、法名は「人生の再出発である、仏弟子としての名」です。生前のお元氣なうちに法名をいただくことをおすすめしています。

法名はお釈迦様の釈の一字をいただき、「釈〇〇(女性は釈尼〇〇)」と名のりします。法名は本山または手次寺の住職が、經典の言葉やお名前(俗名)を考慮しながら選定しています。

☆二〇一九年四月十二日、アルフォーレにて帰敬式執行

推進員養成講座や真宗講座を受講された方は、本場で帰敬式を受け法名をいただいているかと思いますが、体調の問題などで京都の本山(東本願寺)へ行くのが困難な方に、ぜひおすすめしたいのが四月十二日の組の御遠忌での帰敬式受式です。

法要には、東本願寺のお鍵役がご出仕される予定です。帰敬式もお鍵役が執行されます。ぜひこの機会に帰敬式を受け、仏弟子としての新たな歩みをはじめましょう。

*御門首の親戚関係にある方で、かつては「連枝れんしともいいましたが、現在は、お厨子の鍵を管理する役職ということで鍵役といっています

☆稚児行列に参加しませんか

御遠忌法要当日は法要の始まりにお練りがあり、お稚児役として参加してくださるお子様を募集します。地方によっては、「稚児行列に参加すると幸せになれる!」とささやかれているほど、人気であるとも聞きます。仏教でいうところの「幸せ」の意味から考えても、お稚児役に適するのは幼少期の七〜八年間、お練りが出るほどの大法要も珍しいことですので、人生のこの短い期間に仏縁に遇えるということは、確かに稀なことですね♪

秋頃には詳細の案内が発行されますので、お子様のいらっしゃるご家庭には個別にご案内させていただきます。ご親族やお知り合いにもぜひお知らせください。



☆当院の仏教名言集 第二十八回

『一蓮托生（いちれんたくしょう）』

長男が小学校規則のメディアール（テレビやゲームは一日の上限二時間！）を破りテレビを見ていたため、親の判断で、一時期テレビを見ないことに決定しました。次男が「連帯責任なんて嫌だ！」と嘆いた為、私が「連帯責任なんて言葉久しぶりに聞いた。誰が言ってたの？」と尋ねると、学校で聞いてきたとのことでした。思い返せば、私も昔、クラスメイトがストーブで火遊びをして、連帯責任としてストーブを消されて寒い思いをした経験があります。次男の言うように、大変不条理を感じる言葉です。

最近、同じような使い方として仏教用語の「一蓮托生」という言葉が使われています。善し悪しはともかく、複数の人が同じ境遇を共有する言葉として使われています。ですが、本来は「お浄土で阿弥陀様と同じ蓮台で共になる」という意味です。共に仏法を聞く、御同朋・御同行を差す言葉と受け取ってもよろしいと思います。

子どもたちもペナルティーとしての一蓮托生ではなく、御同朋・御同行としての一蓮托生であって欲しいと願います。

（ 当 院 ）



☆編集を終えて：

相変わらず、お盆前の仕事を片付けられないまま今年も夏休みに入。恒例行事を追いかけ、そして追われる毎日です。宿題にスケジュールと体調の管理等々親の心配をよそに子どもたちは自由気まま。私の心中だけが雷警報のようです。「親の心子知らず」：私もそうであったように、我が子達もいつか気付くのでしょうか（笑）さて、育ててもらったこの土地で、私もまた子育てをし、御門徒の皆様や友人、そして我が子に感謝しなければと思うことがいくつかありますが、そのひとつが子ども向けに続けてきた行事がしつかり根を張っていることです。幼い頃からの参加者が中学生になり、運営のお手伝いをしてくれること、それが途切れることなく続いていること、「〇〇くんのお母さん！」と呼んでくれる子ども達と出会い、一人で抱え込んで迷宮入りしそうな子育てを風通し抜群にしてくれること。夏休みお楽しみ会やお茶会は、私にとっても大切な年中行事です。そして、今年に入り月に一度程、私のママ友インスタクター主催の「子連れで参加できるお寺ヨガ」の会場としてお貸しすることになりました。子どもの声はそのままのちの繋がりをあらわしています。その声を聴きながら、自分を支えてくれている身体と向き合うのもよい時間です。寺の年中行事や仏事と重ならないように調整しながら行っているため不定期開催ですが、興味のある方はぜひお声かけください。

（准坊守・晴香）

☆メールアドレス

住職 tom814@kismet.or.jp

当院 minipapa@kismet.or.jp

晴香 haru310@kismet.or.jp

☆ブログ

『真宗大谷派浄敬寺 小僧☆はるかの気まぐれ日記』

http://blogs.yahoo.co.jp/haru_0310_naga

